

令和 6 年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港 100 年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図るために設立され、その目的達成のため昭和 34 年 3 月 12 日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してきました。

平成 26 年 4 月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づき、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しています。

令和 6 年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

I 実施事業

公益目的支出計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

1 博物館事業（継続事業）

絹知識の普及と絹製品の需要の促進に寄与するとともに、魅力ある博物館づくりをめざし、常設展示の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等を実施しました。また、春の企画展として所蔵品展「花嫁衣装―晴れの日の模様と彩り―」を、秋は特別展「型が奏でるリズムと色彩―型絵染 8 人展」を開催しました。

このほか、博物館利用者の利便性向上に寄与するため、入館料等のキャッシュレス決済を導入しました。

(1) 展示事業

ア 常設展示

学校教育活動や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また、絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示となるよう努めました。特に、絹の染織作品は資料保存と公開のバランスを図りつつ、適宜展示替えをしながら紹介しています。また、日本の復元時代風俗衣装人形のうち、平安時代、江戸時代の着替えを実施しました。

イ 春の企画展

シルク博物館所蔵品展「花嫁衣装―晴れの日の模様と彩り―」

〔会 期〕 令和6年4月27日（土）～6月2日（日）

当館の所蔵する江戸時代後期から昭和時代の花嫁衣装を中心に、祝儀に用いる掛袢紗や吉祥模様が表された子どもの着物など44点を展示し、19世紀から1970年代までの花嫁衣装の移り変わりと、時代ごとにみられる模様・色彩といった特色を紹介しました。期間中は、来館者に解説を記した無料リーフレットを配布し、見どころを紹介するギャラリートークを開催しました。

ウ 秋の特別展

「型が奏でるリズムと色彩―型絵染8人展」

〔会 期〕 令和6年10月12日（土）～11月24日（日）

「型絵染」は型紙を用いて布を染める技法のひとつで、1956年に芹沢銈介が重要無形文化財保持者として認定された際、はじめてこの名称が用いられました。本展では、型絵染の染織作家8名を招き、着物・帯・壁掛けなど約50点の作品のほか、制作工程を垣間見ることのできる型紙やスケッチ、道具などを展示し、美しい型絵染の世界を堪能していただきました。

また、関東在住の作家6名によるギャラリートークには、毎回多くの参加者があり好評でした。

（2） 教育普及事業

ア 「チャレンジ！かいこプログラム」

（ア） 蚕種配布

a 学校対象

〔期 間〕 令和6年5月16日（木）～5月18日（土）

県内の小学校等を中心に、蚕の卵（蚕種）や人工飼料を有償頒布しました。また、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講しました。

b 個人対象

[期 間] 令和6年7月19日(金)～7月21日(日)

個人向けに蚕種を有償頒布しました。昨年度に引き続き、全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2024」の対象イベントとしました。

(イ) 「かいこ教室」

[期 間] 令和6年7月27日(土)～8月11日(日)

小学生等が蚕からシルクまで一貫して学べるように、保存蚕品種8種・野蚕等の飼育展示、蚕の生体観察の他、繭人形、生糸のランプシェード、真綿のスタンドを作る体験等を実施しました。

(ウ) 団体見学・ワークショップ

[期 間] 団体見学 随時

ワークショップ 毎月1回程度開催

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、小学校の団体見学を積極的に受け入れるとともに、子ども向けの繭や真綿を使った人形作り、ハンカチ染め体験のほか、生きた蚕の観察とシルクについての勉強会などのワークショップを開催しました。

(エ) 「たのしいかいこの発表会」

[期 間] 令和6年12月10日(火)～令和7年1月19日(日)

「チャレンジ！かいこプログラム」の締めくくりとして、小学生や園児などが作成した蚕の観察記録や繭・生糸を使った作品等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会

くみひもストラップ作り体験、手作り真綿の実演・講習会、真綿からの太糸作り実演、手紬糸作り実演、スカーフ染め体験などを開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。

ウ 外部講師による講座

「白き糸の物語 ～天の虫がつなぐ歴史・人・まち～」

〔開催日〕 第1回：令和7年1月11日(土)

第2回：令和7年2月8日(土)

第3回：令和7年3月15日(土)

映画「シルク時空(とき)をこえて」の上映にはじまり、開国から現在に至るまでの日本の近代化、横浜の発展を根底から支えた蚕糸業やその技術の発展、また現在日本の各地に遺る生糸貿易関連の建造物等について専門家を講師に招いて学びました。

エ 学芸員によるギャラリートーク

〔開催日〕 令和6年4月6日(土)、9月14日(土)、

令和7年2月1日(土)

学芸員が常設展示に沿って案内しながら、蚕や絹、染織品など多彩な話題を来館者へわかりやすく解説しました。

オ 博物館実習生の受入れ

〔期 間〕 令和6年7月24日(水)～ 8月12日(月・振替休日)

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、10名の学生を受け入れ、講義と教育普及事業の実践(蚕の飼育も含む)などの実習を行いました。

(3) 連携事業

ア 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2024」

〔期 間〕 令和6年7月19日(金)～7月21日(日)※個人向け蚕種配布
一般財団法人大日本蚕糸会と各地の蚕糸関係博物館等で実行委員会を立ち上げ、各館が開催する「かいこの飼育体験」等の催事を通じて蚕糸業への理解を深めていただく取り組みに参加しました。

イ 横浜輸出スカーフ展示「私の、推しスカ」

〔期 間〕 令和6年11月30日(土)～令和7年1月13日(月・祝)

横浜市歴史博物館及び関東学院大学と連携して、横浜スカーフアーカイブ資料の小規模な企画展示を開催しました。

ウ 「シルキークリスマス」

〔開催日〕 令和6年12月15日（日）

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、クラシック・ヨコハマ等と連携してクリスマスイベントを実施しました。

エ その他

神奈川県立歴史博物館を中心に近隣の博物館園と連携して開催する夏休み子ども向けイベント「ミュージアム・ミッション」、当財団が会員となっている「山下公園通り会」が主催する「ハマフェス」等の催しもの、令和6年度新たに制定された「蚕糸の日」関連事業などに協力しました。

※ 蚕糸の日（3月14日）：昭憲皇太后が宮中養蚕を開始した明治4年の第一回掃き立て日に由来。我が国の養蚕・絹の歴史についての広報や、国産絹製品のプロモーションを実施すること等を通じて、養蚕の振興、絹の伝統文化の継承を推進する目的で制定された。

（4） 広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、ホームページやX（旧Twitter）の積極的な利用や、催し物案内を発行するなどして周知に努めました。

（5） 博物館月別入館者数（別紙）

2 シルク等普及推進事業（継続事業）

神奈川県在地産業であるシルク産業の振興を支援するため、業界団体等の宣伝、シルクの普及、販売促進活動等の支援に努めました。

（１） シルク等普及活動事業

ア 「シルキークリスマス」（再掲）

〔開催日〕 令和6年12月15日（日）

若い世代を中心に幅広い世代の方々に、楽しくシルクを理解し関心を深めていただくことを目的として、クラシック・ヨコハマ等と連携してクリスマスイベントを実施しました。

イ 「かながわシルクフェア」

神奈川県の伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と連携協力のもと「かながわシルクフェア」を開催し、生糸、シルクの魅力の周知に努めました。

（２） 施設を活用しての普及活動支援事業

ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援するため、博物館内のミュージアムショップ出店業務を横浜シルクミュージアムショップアソシエーションに委託しました。

イ 催事場等による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため、催事場やギャラリースペースの貸与を行いました。

別紙 博物館月別入館者数

(単位：人)

区分 月別(開館日数)		日本人			外国人			入館者計	(前年度) 入館者計
		一般 シニア 学 子 供	団体	計	一般 シニア 学 子 供	団体	計		
令和 6年	4月 (21日)	662	15	677	221	0	221	898	1,222
	5月 (27日)	2,115	683	2,798	152	0	152	2,950	2,368
	6月 (22日)	1,326	804	2,130	158	0	158	2,288	1,762
	7月 (26日)	1,304	41	1,345	142	0	142	1,487	1,360
	8月 (26日)	1,533	66	1,599	110	0	110	1,709	1,921
	9月 (25日)	870	639	1,509	180	0	180	1,689	1,497
	10月 (23日)	1,304	538	1,842	201	0	201	2,043	1,244
	11月 (22日)	1,594	1,057	2,651	160	155	315	2,966	2,768
	12月 (22日)	1,413	168	1,581	67	0	67	1,648	1,656
令和 7年	1月 (23日)	1,108	210	1,318	59	9	68	1,386	1,555
	2月 (23日)	919	223	1,142	64	0	64	1,206	1,360
	3月 (26日)	1,031	92	1,123	229	59	288	1,411	1,499
合計 (286日)		15,179	4,536	19,715	1,743	223	1,966	21,681	20,212
月平均 (24日)		1,265	378	1,643	145	19	164	1,807	1,684

()内は開館日数

Ⅱ その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

1 部室賃貸事業

ホームページを活用したPRに加え、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し、テナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入館率の一層の向上をめざしました。

(1) 部室の賃貸業務

ア 部室賃貸等収入

部室賃貸料金	390,172千円
諸料金	97,343千円
計	487,515千円

イ 入館状況（別紙）

(2) 建物及び諸設備等の維持向上

当ビルは、建築から60年以上が経過しており、建物及び諸設備等の維持管理が大変重要な課題になっています。本年度においても会館の財務状況を踏まえつつ、給排水本管設備更新工事等の実施により、建物設備の安全の確保や長寿命化を図るとともに、良好な執務環境の整備に努めました。

本年度中に実施した重要な設備投資は次のとおりです。

給排水本管設備更新工事	47,080千円
給排水本管設備更新関連工事	1,320千円
各階空調機更新工事	10,821千円
積算電力計更新工事	8,877千円
部室関連工事	6,588千円
地下1階スプリンクラーヘッド交換他工事	1,769千円
計	76,455千円

(3) 保全管理関係

建物の環境衛生については、ビル衛生管理法に基づき定期的に測定を行い、また諸設備の点検には充分留意し、保全管理の徹底を図りました。

2 附帯事業

入館者等の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前の平面駐車場は新紙幣への対応と併せて機器の更新を行い、引続きタイムズ24(株)に運営委託しました。

(1) 立体機械式車庫収入

車庫使用料金	9,509千円
--------	---------

(2) 平面駐車場収入

駐車場使用料金	25,061千円
---------	----------